
繋がった世界

黒のファランクス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

繋がった世界

【Nコード】

N9872Y

【作者名】

黒のフランクス

【あらすじ】

幻想郷にモンスターが流れ込んだ。モンスターにこちらの攻撃が通じない。

同時に一人のハンターが幻想入り。結構スゴイ奴らしい。

不定期更新です。

過度な期待はしないでください。

兆候〜幻想郷側〜（前書き）

どうも、黒です。

兆候〜幻想郷側〜

「――此処は、幻想郷、
人間や妖怪達が暮らす世界である。」

この世界のとある森にて、
「さーて、霊夢のところでお茶を貰いにいくか……」
とつぶやきながら文字どおり飛んでいく魔法使い・霧雨魔理沙がいた。

一方とある神社では、

お茶を啜りながらグータラ寝転がり、女性らしさが見あたらない（ボ
カツ、ゲハツ、

「なんか言った？」

（……いえ、なにも。コホン。）

お茶を啜っている巫女・博麗 霊夢がいた。

「そろそろアイツが来「おい、霊夢」「ほらね。」

誰に言ったのかわらんが、霊夢はそう呟いた。

「おっす、霊夢。」

「何よ魔理沙、昼食なら終わったわよ。」

「まあまあ、そう硬いこと言うなって。」

それよりも、こんなモン拾ったんだぜ。」

「？」

そう言っつて魔理沙はある物を取り出した。

（どこから、とかは触れないでほしい。）

「何コレ？剣？」

「『丁寧に盾とセットで鳥居の上にあっただぜ。』

「一応武器として使うのだからうけど、

どうすんの？これ？」

「しばらく持っていた方がよさそうだけ。

持ち主がいるかもしれないからな。」

「それもそうね。」

と言って、小さな剣をしまった。

・・・コレが後に起こるのである。異変を解決する鍵の一つになるとは知らずに・・・

兆候〜幻想郷側〜（後書き）

語り部が殴られても
気にしてはいけません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9872y/>

繋がった世界

2011年11月30日00時52分発行